

令和5年度 第1回 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会 会議録

日 時	令和5年7月19日(水) 午後2時～3時30分
場 所	教育委員会会議室 (東庁舎6階)
参加者	<p>【会 長】中野 貴博 中京大学 スポーツ科学部 教授</p> <p>【副会長】藤田 雅也 静岡県立大学短期大学部こども学科(美術教育研究室) 教授</p> <p>【委 員】粕谷 浩二 (公財)豊田市スポーツ協会 常務理事</p> <p>【委 員】藤本 聡 (公財)豊田市文化振興財団 専務理事</p> <p>【委 員】岡山 尚司 愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長</p> <p>【委 員】加藤 秀昭 豊田市小中学校校長会 副会長</p> <p>【委 員】八木 健次 豊田市 生涯活躍部長</p> <p>【委 員】三浦 法雄 豊田市教育委員会 教育部長</p> <p>【事務局】生涯活躍部市民活躍室 加藤室長</p> <p>生涯活躍部文化振興課 相田課長、太田副課長、大西担当長、志村主査</p> <p>生涯活躍部スポーツ振興課 都築課長、阿垣副課長、藤村担当長、原田主査、 宇佐美主査、郡司主査</p> <p>教育部学校教育課 小山課長、赤川副課長、若月専門員、馬場指導主事</p> <p>【傍聴人】なし</p>
内 容	<p>豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議</p> <p>1 会長挨拶</p> <p>委員の半分強が3月から継続の方。新しい委員を交えて活発に議論をお願いしたい。部活動の地域移行に関わりながら、この取組に関心をもち、参加してくれる方が少しでも増えるとよい。</p> <p>2 新任委員挨拶</p> <p>3 事務局からの議題の説明・議題に対する委員からの意見等</p> <p>(1) 休日部活動の地域移行に関するアンケート</p> <p>【事務局】・資料に基づき説明</p> <p>【委 員】・子どもの考えを一番に、この取組に向かう理念を地域の方と共有していきたい。子どものアンケート結果を見ると、地域部活動を楽しみたいという子と、一つではなく複数の活動をやってみたい子がいる。この辺りが今後考えていかななくてはならないところではないか。</p> <p>【委 員】・情報共有が難しかったとある。このことに対する改善策があれば教えてほしい。</p> <p>【事務局】・引継ぎの時間を十分に設けて、顧問と地域部活動指導者との連携の時間をとる。また、地域コーディネーターにつなぎ役になってもらい、情報共有を図っている。</p>

【会 長】・情報共有とあるが、どんな情報の共有が必要なのか。

【事務局】・子どもたちの様子に関する情報共有が一番重要になる。モデル校では、日誌を地域部活動指導者に書いてもらい、それを教員が読んで地域指導者と連絡を取り合うなどの対応をしていた。

【委 員】・アンケートで現状をしっかりと把握していることがよい。地域移行に関して賛成が多い反面、情報共有の難しさが分かっただけでも大きな成果。情報共有の場をとることは難しいが、部活動の地域移行に関わるすべての人が、子どものためにどう課題を解決していくかを考えていくことが重要。
・私も部活動を担当していたことがある。教員は子どものことを知りたいので、子どもの土日の活動を教員が気軽に見に行くことができる雰囲気作りが大切である。子どもを大切に育て指導者や教員、地域の方が子どもを見守り、その中で人がつながっていく可能性のある豊田市の取組が良い。

【会 長】・地域の人に地域移行のシステムやねらいを周知していくことが鍵である。保護者・教員・指導者がきちんとかみ合うようにしていくことが重要。システム的な面で、地域の方がどう指導に当たっていくか考えていく必要がある。

(2) こどものスポーツ・文化活動等の環境整備に向けた令和5年度の主な取組内容及び部活動の地域移行に向けたスケジュール（案）

【事務局】・資料に基づき説明

【委 員】・目指す絵姿という言葉が今回初めて聞き、抽象的な印象を受けた。目指す絵姿とはどういうことか。もう少し違う言葉で表現したほうが良いのでは。

【委 員】・子どもを対象としたスポーツ少年団・スポーツクラブがある。それぞれの団体ごとに大会に出て試合に勝つことをねらっているところもあれば、そうでない団体もある。今月末からヒアリングが行われるとあるが、それぞれの団体にどんなことを聞いていくのかよく検討してほしい。

【委 員】・令和8年度以降のイメージが湧いてこない。そのあたりの説明がもう少し欲しい。

【事務局】・令和5年度から各中学校に地域部活動指導者が入ってきている。だが、これが最終形ではない。令和8年度からの目指す絵姿に向かい、令和5年度から7年度まではあくまでも過程であり、この期間をとおして目指すゴールを明確化したいと考えている。

【委 員】・表の下に示しているように、令和7年度あたりから組織化していくイメージでよいか。

【事務局】・令和7年度には形にしたいと思っているが、議論する中で変わってくるものがあることも想定している。

【委員】・このスケジュールを見て、今年度中にいろいろなものを作って形にしていく予定でいることがよく分かった。

- ・中小体連からの情報で、全国大会は令和8年度以降も規模を縮小して開催していく方向であるとのこと。子どもの人数も減ってきて、合同チームや拠点校チームのシステムが導入されるようになった。また、地域移行型のチームも中小体連の大会に参加が可能になってきている。今年度は5種目（バレーボール、ハンドボール、相撲、柔道、弓道）で地域クラブチームが県大会から参加が可能になった。状況が大きく動いている。

【会長】・大会の問題は非常に難しい。高校や大学も学校主体とクラブチーム主体に分かれている。それぞれのチームが立ち位置をよく考えなくてはならない。

- ・これまでであれば、一つの地区に部活動が1つあった。しかし、今後はそこに楽しむことを目的にしたチームなど、地区によっては同じ種目のチームが2個以上あっても良いのではないか。
- ・参加人数を増やそうと思うと、これから実施するニーズ調査で子どもや保護者等がどの水準での活動を求めているのか、しっかりとした把握が必要。
- ・自分たちがこれまでやってきたことのイメージが正解ではない。子どもや保護者や指導者がどんなことを考えるのかを知る必要がある。
- ・高いレベルを求めれば求めるほど、参加する人数が減る傾向にある。参加しなかった子どもたちは決して競技をやりたくないわけではない。純粹にスポーツを楽しみたい子どもたちが参加できる場所が必要であり、大会に出ない集まりがあってもよいのではないか。

【委員】・今年度から28校全中学校で、部活動の地域移行をやれるところからやっ
ていこうと実施している。

- ・崇化館中学校はOBをはじめとする地域の方に指導者のお願いをしていった。しかし、教員と一緒に指導するのではなく、指導者となる自分が主体となって責任を持つことになると、少しハードルが高くなると感じている。
- ・また、1月にはチラシを作って回覧を回した。すると崇化館地区では、かなりたくさんの方が手を挙げてくれた。実業団で選手として活躍していた方や学生、塾の講師など現在20名程。あと3つの部活動に指導者がついてくれば全ての部活動に指導者がそろうところまでできた。
- ・それから、野球の例で言うと、野球は硬式を選ぶ子、軟式を選ぶ子に分かれる。部活動はどちらかという楽しみたい子が入ってきており、ほとんど初心者。勝ちたい子どもはクラブチームに入っていく現状がある。私たちの子どもの頃の感覚と大きく変わってきている。
- ・令和7年度までに取り組んできたことと、令和8年度からの取組が大きく変わってしまうと多くの方が戸惑うため、今の形をできるだけ大切にしながら新しい形を構築したい。

【会 長】・地域に回覧したチラシには、「こんな地域部活動を展開しますよ」という理念のようなものは記載されたのか。

【委 員】・チラシには「勝利至上主義ではない」といった理念を示した。

【会 長】・指導者に対して、地域移行におけるチームのあり方を明確に打ち出していくことが重要。子どもが自分で選択するための材料にもなる。

【委 員】・崇化館地区の20名程の地域部活動指導者は、今、どのようなかかわり方や立ち位置で指導しているのか。

【委 員】・今年度からの取組であるため、まだ地域部活動指導者だけで指導することは難しい。「教員と一緒にやりましょう」というスタイルでやっている。
・夏の大会が終わり、新チームになるところで少しずつ地域部活動指導者主体の活動に移行していきたいと思っている。

【委 員】・うまくいっているチームとうまくいっていないチームを分析するとよい。うまくいっているチームのノウハウを共有し、子どもが安心して活動できる団体をたくさん作りたい。今後の経過も教えてもらいたい。

【会 長】・施設管理やケガへの対応の問題もある。このことについては、ある程度の方向性は事務局として示していかななくてはいけない。

(3) ニーズ実態調査の状況

【事務局】・資料に基づき説明

【会 長】・「人材バンクがあると良い」「新しい形を早く教えてくれれば自分たちも何ができるか考えられる」と地域の方が当事者として課題意識をもっていることが良い。

・具体的にねらっていくことを明確に示していくことができれば、周りも関わりやすくなる。また、中学校区別カルテについては、ニーズ実態調査を終えた後にまとめていくイメージとして提示されていると考えてよいか。

【事務局】 そのとおり。

【委 員】・ニーズ実態調査はどのような媒体を使用して行うのか。

【事務局】・子どもの学習用タブレットを活用して調査する。特に子どもは学校にいる時間を使ってアンケートに答えてもらうことができる。かなり多くのデータを集めることができる。保護者数については未知数である。

【会 長】・中学校区別カルテの示し方についてはよく考えてもらいたい。場合によっては地区ごとに示すデータを変えていくことも想定すると、保護者や子どもがやりたいことを選択しやすくすることにもつながる。

【委 員】・議論のたたき台として目指す絵姿を提示していけるとよい。指導者をどうやって確保するとか、ケガが出た時の対応をどうするとか、スポーツ協会、文化振興財団等にどうはたらきかけていくとよいのか、絵姿をもとに議論していくことができる。

【委員】・2月にシンポジウムを実施したが、市民に対する周知はまだこれからかな
と思っている。今後の具体的な戦略が知りたい。今はまだ明確でないなら
ば、次回に示してもらいたい。

【事務局】・改めてお示ししていきたい。